

■サンプル調製時の注意点

サンプルの調製には、Invitrogen™TRIzol とRNeasy®Mini Kit (QIAGEN®) などカラム精製式のキットを組み合わせ使用されることを推奨します。これにより、ゲノムDNAのコンタミを最小限にすることが可能です。A260/A280の値は、1.8~2.1が推奨ですが、弊社でラベリング前に、再度確認をします。サンプル調製時に逆転写反応の阻害剤（硫酸化多糖類、EDTA、DEPCなど）が残存していると、マイクロアレイ解析を行えない場合があります。RNAサンプルは、RNase-free水に溶解してください。DEPC水は使用しないで下さい。rRNAの除去は必要ありません。サンプル溶解試薬はTRIzolの他、TRIreagent、Isogen、Qiazole等もご使用いただけます。

■培養細胞および動物細胞からのRNA抽出からご依頼いただく場合、

【接着細胞】

インキュベーターから出した後、迅速に培地を除き*、そこに、Invitrogen™TRIzol を添加し、細胞を回収します。チューブに移した後、凍結保存が可能です。

【浮遊細胞】

遠心して細胞を沈殿させた後、培地を除き*、そこにInvitrogen™TRIzol を添加します。細胞の状態によっては、Invitrogen™TRIzol LS を直接、添加することも可能です。事前にお問い合わせください。

* 培養細胞のサンプリングの際はPBS等での洗浄は必要ありません、逆に遺伝子発現のノイズの原因になります。

【動物組織】

Invitrogen™TRIzol 中でホモジナイズしたものをお送りいただくことを推奨します。難しい場合には、動物組織分離後、液体窒素等で急速冷凍し、ドライアイスで保冷して冷凍便でお送りください。

* ウイルス等の汚染の可能性のあるサンプルにつきましては、事前にご相談ください。